

質問事項		選択式回答	記述式回答
経済動向			
1	<p>2015年8月下旬から9月上旬にかけての経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(2015年5月下旬から6月上旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。なお、政府の景気認識については月例経済報告の中でお示ししているのをご参照ください。</p>	悪くなっている	<p>14年4月の「消費税増税ショック」から1年以上経っても、回復の足取りが依然停滞しており、直近4-6月期GDPのマイナス成長にも表れている。特に労働需給が逼迫し雇用不安が後退する中での消費動向が思わしくないことには注意が必要だ。政権に対する支持率の低下にも表れた政策への信頼低下が消費者心理とリンクしている可能性も考えられる。中国経済の行き詰まりに端を発する最近の市場の変調は、金融緩和による資産効果により維持されてきたこれまでの株高に黄信号が灯ったことを意味しており、決して楽観は許されない。問題は家計・企業が信頼できる将来像を描けるかどうかであり、財政規律の緩みは将来への信頼にはマイナスとなる。幅広い規制改革の実施や、歳入面のみならず社会保障を含む歳出面での改革など、3年目の政権の改革実行の「質と量」が内外から問われている。</p>
デフレ脱却・経済再生を確実にするための取組			
2-1	<p>(別紙5)の1.(1)のとおり、経済財政諮問会議ではデフレからの脱却、経済の好循環の拡大に向けた取組を進めていくこととしておりますが、現場の実情や地域の視点から特に強化・加速すべきとお考えになる取組について具体的なご意見がございましたら300字以内でご記入ください。</p>	-	<p>企業収益などの業績が歴史的に高水準にあるにもかかわらず、設備投資が加速せず景況感の回復も思わしくない点は、民間主導の本格的成長に移行する上で問題である。企業心理がデフレ的経済環境の下での状態からまだ脱却しきれていないことを示しているように思われる。一例として、「生産性をあげるべき」というと、日本の企業では雇用調整しかないと受けとられることが依然多い。生産性はアウトプット/インプットであり、同じインプットに対してより大きな、あるいは質の高いアウトプットを生むことである。部門間の人員シフトにより、市場開拓を通じて売上拡大に成功して生産性を向上した企業の例など、ベストプラクティスを知ることは有意義なのではないか。</p>
2-2	<p>また、(別紙5)の1.(2)のとおり、経済財政諮問会議では我が国経済の潜在的な成長力の強化について取組を進めていくこととしておりますが、現場の実情や地域の視点から特に強化・加速すべきとお考えになる取組について具体的なご意見がございましたら300字以内でご記入をお願いいたします。</p>	-	<p>分岐点・踊り場状態に置かれた現場に対して、改革は必ず実行される、後退しないと言うメッセージを送ることが一番大事ではないかと思われる。成長の「現場」である企業部門の業績は、過去から見れば堅調であるが、絶対水準で見れば収益性・生産性で依然国際的に後れを取っている。現状維持で満足しがちな企業心理に刺激を与え続けることが政策姿勢として重要だ。機関投資家を始め、株主からの企業への働きかけを促進する環境整備を進めるべき。</p>